

140字の読書界

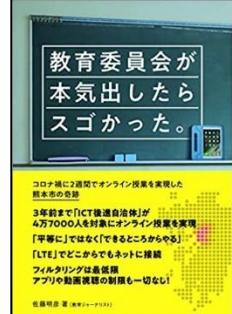
地歴科有馬おすすめの「Chromebookのお供にしたい」本

1 書名：教育委員会が本気出したらスゴかった。 [藤高蔵書 ×]

著者：佐藤明彦（さとう あきひこ）

発行：時事通信社

副題は「コロナ禍に2週間でオンライン授業を実現した熊本市の奇跡」で、昨年4月、47,000人の全小中学生対象にオンライン授業を展開した顛末記。ICT環境整備が政令指定都市の中でも最低レベルだった熊本市。熊本地震をきっかけにICT教育導入を進め、コロナ禍に活かした、勇気ある行政の取り組みです。



2 書名：学校が「とまった」日 [藤高蔵書 ×]

監修：中原 淳（なかはら じゅん）

発行：東洋館出版社

副題は「ウィズ・コロナの学びを支える人々の挑戦」です。1年前の臨時休校中、私は立教大学教授の中原先生のブログを毎日チェックしていました。「学びを止めるな」を合言葉に、4月頭から完全オンライン授業を実施するために、まさに走りながら考えていらっしゃったからです。教育には志が欠かせません。



3 書名：Google式10Xリモート仕事術 [藤高蔵書 ○]

著者：平塚知真子（ひらつか ちまこ）

発行：ダイヤモンド社

副題は「あなたはまだホントのGoogleを知らない」です。Gmailを使い始め早17年。ウェブメールは数十MBの容量制限が普通の時代に、突如15GBのGmailが登場し、文字通り衝撃を受けました。本書は、約70あるGoogleアプリから10を厳選し、それらを組み合わせてパフォーマンス10倍を目指す指南本。



4 書名：できるGoogle for Educationコンプリートガイド [藤高蔵書 ×]

著者：(株)ストリートスマート

発行：インプレス

いまAmazonのページを見たら、定価2,420円のこの本が、新品で3,580円、中古も同じくらいの値段で売られていました。全国の学校にChromebookが入り始め、各地の先生方が購入して品切れになっているのでしょうか。この本の第1版を片手に、自宅で悪戦苦闘していた1年前の臨時休校中の日々が懐かしい。

